
カエル！ジャパン通信 Vol.215 令和5年9月12日
発行：内閣府 仕事と生活の調和推進室

<<<今号の目次>>>

1. コラム 組織戦略として考えるテレワーク

2. 最新情報

《お知らせ》 3件

《地方公共団体等の動き》 10件

■□■ 1. コラム ■□■

組織戦略として考えるテレワーク

比嘉 邦彦 さん

東京工業大学名誉教授。米国アリゾナ大学から1988年に経営情報システム専攻で博士号を修得。テレワーク・クラウドソーシングをメインテーマとした21世紀の情報システムのあり方、組織改革、地域活性化などについて研究。日本テレワーク学会特別顧問。

働き方改革の一つとしてテレワークが浸透しました。内閣府の調査（※）によると、2023年3月の全国のテレワーク実施率は30.0%であり、東京23区が51.6%、地方圏では23.1%となりました。今回は、テレワークを継続して活用する際や、新規導入を考える際のポイントについて比嘉さんにお話を伺いました。

◆生産性評価の基準を明確に

テレワーク導入については、実施前とその後の生産性の変化が注目されがちです。ただし、その変化は時間と経験により順応する傾向が見られます。2020年にテレワーク導入が進んだ頃の調査では、生産性が下がったと感じる回答者が多かったのですが、一年経過すると生産性が上がったと感じる回答者の割合が増え、現在では生産性が下がったと感じる回答者は少ない状況です。

しかし生産性をどう評価、測定するかは、企業ごとに測定方法を明確に定める必要があります。本来は、現場のマネジャーとワーカーが協議して納得のいく方法を選ぶべきでしょう。まず各現場で測定方法を決め、それを会社全体で公表する。そして、テレワークを導入する前に生産性を測定し、導入後に再度測定を行い、生産性が上がったのか、下がったのか、変わらないのかを客観的に評価することが重要です。それを行わずして新しいものへの不安や嫌悪からくるネガティブな感情で、生産性が下がったとする「意見や想像」を必要以上に問題視してはいけません。

◆人の適性ではなくワークフローの転換へ

テレワークに適合する人や仕事についての議論は数十年前から存在しますが、その議論自体が問題だと私は考えています。同時刻に同じ場所に集合するスタイルの場合、遅刻する人もでてきます。しかし、遅刻する人が必ずしも生産性が低いとは限らないのです。問題は人や仕事がテレワークに適しているかどうかではなく、「全員がテレワークを活用できる働き方」、つまりワークフローをどのように変えるかという点にあります。

テレワークにそのまま集団での働き方を適用すると問題が生じます。例えば、上司から見ると部下が目の前から消え、常時見えなくなることにより評価や管理が難しくなるという不安もあるでしょう。しかし、この問題は従来の管理方法が誤っていたことを示しています。ナレッジワーカーの多くは頭の中で仕事をし、そのアウトプットは頭の中で働いている結果が出てくるものです。その作業を外からどれだけ観察しても、彼らが本当にどの程度働いているかは分からないのではないのでしょうか。

上司の本来の役割は、部下の勤怠管理ではなく、仕事の進捗と品質をしっかりと管理することです。これには、遅れやボトルネックを早期に察知し、適切な対策を講じる能力が求められます。しかし、日本の企業には、高度成長期に形成された階層型の組織構造が根付いており、マニュアルや標準化が重視され、上司はこれらに従った運営を守ることが主な役割となっているようです。これはイノベーションを妨げる要因となります。イノベーションは、標準化に縛られず、新しいアプローチを模索することから生まれるため、上司は仕事の管理に注力し、その下に働く者が柔軟に仕事に取り組める環境を整えることの方が重要なのです。

◆今後の“オフィス”の役割

私は、オフィスの役割は徐々に変わりつつあると考えています。将来的には、物理的な労働の場から、「ソーシャライゼーションのための場」へとシフトし、対話や交流を通じてチーム意識を醸成するための重要な空間として役割の方が大きくなるのではないのでしょうか。

テレワークの導入は、コスト削減や人手不足対策、さらには働きやすい環境作りに寄与します。新卒者や現役社員の多くがテレワーク環境を望んでおり、社員の満足度向上や人材確保にもつながります。また、育児や介護との両立を可能にし、超少子高齢化への対応、激化するグローバル競争等々、社会全体の課題解決にも寄与することが期待されます。今やテレワークは、緊急時の事業継続ツールや、福利厚生の一環だけのツールではありません。イノベーション向上を図るためにもテレワークを戦略として捉え、上手に活用してほしいと思っています。

※内閣府「第6回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」
https://www5.cao.go.jp/keizai2/wellbeing/covid/pdf/result6_covid.pdf

【厚生労働省】

●テレワークセミナー（オンライン）

9月29日（金）に「テレワークセミナー（第2回）」をオンラインで開催します。（参加費無料）

テレワークは、ICT を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方です。テレワークの活用によって、育児・介護と仕事の両立や、優秀な人材の確保・定着などの効果が見込めます。

このセミナーでは、テレワーク実施時の労務管理上の留意点、ICT 活用方法と留意点、テレワーク導入企業の紹介、導入企業の体験談などテレワークに必要な情報を説明します。セミナー終了後に、労務管理面や ICT 面で企業が抱える個別具体的な課題などについて、セミナー講師が直接アドバイスする「個別相談会」も実施します。（希望者のみ・事前申し込み制）

【開催日】9月29日（金）13:30～15:30 ※オンライン接続開始 13:20 定員 200 名

【申込や詳細、今後のスケジュールはこちら】

テレワーク総合ポータルサイト <https://telework.mhlw.go.jp/support/seminer/>

●自営型テレワーク活用セミナー（オンライン）

自営型テレワーク活用セミナー（※）を10月にオンラインで開催します。

自営型テレワークの基本を知り、「自営型テレワークの適正な実施のためのガイドライン」を理解することで、自営型テレワーカーに業務を注文する発注者および仲介事業者と自営型テレワーカーが、トラブルを未然に防止し円滑に業務を進めることを目的としたセミナーです。ぜひご活用ください。【事前申し込み制・参加無料】

（※）自営型テレワーク活用セミナーは、会社に雇用されないで、請負契約などにより、主に自宅などでテレワークを行う方やそのような方へ業務委託をしたいと考えている事業者の方などに向けた説明会です。

- ・自営型テレワーカー向け @ZOOM ウェビナー
2023年10月26日（木）10:00～12:00
- ・発注者・注文者等企業向け @ZOOM ウェビナー
2023年10月26日（木）14:00～16:00

詳細、申込はWEBサイトにて

■自営型テレワーカー向けセミナー

https://homeworkers.mhlw.go.jp/seminar/2023_w.html

■発注者・注文者等企業向けセミナー

https://homeworkers.mhlw.go.jp/seminar/2023_c.html

●「ユースエール認定制度」をご存じですか？

「ユースエール認定制度」は、若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業（常時雇用する労働者が300人以下の事業主）を厚生労働大臣が認定する制度です。認定を受けた企業は、ハローワークでの重点的なPRや、認定企業限定の就職面接会などへの参加といった支援を受けられ、若年人材の確保が期待できます。

また、認定の取得・維持に向けて取り組む中で、ワーク・ライフ・バランスの推進にもつながり、働きやすい職場であることをアピールできます。各都道府県労働局又は最寄りのハローワークへお気軽にご相談ください。

- ・ユースエール認定制度の詳細

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000100266.html>

- ・若者雇用促進総合サイト

<https://wakamono-koyou-sokushin.mhlw.go.jp/search/service/top.action>

《地方公共団体等の動き》

各事業の詳細はそれぞれの地方公共団体にお問い合わせください。

【山形県】

チェリアフェスティバル山形 2023 ～ 認め合い支え合い ともに歩もう多様性社会 ～

男女共同参画についての理解を深めるため、チェリア登録団体の活動発表や交流などを行うものです。

皆さま是非御参加ください！

日時：

- ・ワークショップ：令和5年10月7日（土）、10月8日（日）9：00～17：00
- ・展示・発表：令和5年10月7日（土）、10月8日（日）9：00～17：00
- ・県民交流コーナー：令和5年10月8日（日）

場所：遊学館

参加費：無料

- ・講演会

日時：令和5年10月8日（日）10：00～12：05（9：30 受付開始）

場所：遊学館ホール、酒田市男女共同参画推進センターウィズ（サテライト会場）

定員：遊学館ホール 250名、オンライン配信 100名、サテライト会場 20名

参加費：無料

申込方法：Web、電話、FAX、郵便又はメール

申込締切：令和5年9月25日（月）

<https://yamagata-cheria.org/archives/8334>

【福島県】

キラッ人さん（ロールモデル）を講師として派遣します！

県では、女性活躍推進や男性の家事・育児への参画等に関する意識の醸成を図ることを目的に、企業や団体等が実施する講演会等に各分野の専門的な知識や実践経験を有する方を講師として派遣します。

対象：

- ・県内市町村、企業・団体 6回程度
- ・大学・専門学校等 6回程度

料金：無料

申込方法：メール

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16005c/kiratto-haken.html>

【埼玉県】

She up!女性の「働く」を応援するイベント 1期～合同企業説明会・相談会～

「しごとのブランクがあるけど大丈夫?」「どんな女性が働いているの?」等、女性の活躍を応援する様々な業種の企業の方から、リアルな情報を聞くことができる交流会です。気になった企業についてはそのまま面接を受けることも可能です。

日時：令和5年9月22日（金）13:00～16:30

会場：With You さいたま セミナー室

定員：50名

参加費：無料

申込方法：Web（電子申請）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/swcc/seminar/schedule/202309sheup1.html>

【千葉県】

令和5年度千葉県男女共同参画地域推進員事業（東葛飾地域）「なぜ理系に女性が少ないのか」

令和5年9月28日（木）に千葉県男女共同参画地域推進員事業（東葛飾地域）を開催します。本講演会は会場参加とオンライン参加のハイブリッド開催となっており、どなたでも自由に御参加可能です。また、当日参加が難しい方向けに、後日配信も実施いたします。

日時：令和5年9月28日（木）13:30～15:00

※後日配信は令和5年10月17日（火）～10月31日（火）までの、2週間限定の配信

場所：東京大学 柏キャンパス メディアホール(柏図書館内施設)

対象：千葉県在住・在勤・在学の方

定員：会場参加 70名、オンライン（Zoom ウェビナー）参加 100名

申込締切：令和5年9月25日（月）

参加費：無料

申込方法：Web ※後日配信も申込が必要

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyousei/event/2023/r5toukatsu1.html>

【東京都】

令和5年度女性活躍推進事業「女性のためのキャリアアップセミナー」

リーダーに向けて一歩踏み出すあなたを応援！女性のためのキャリアアップセミナー

東京都では、リーダー・管理職になることに迷いや不安を感じている女性が、キャリアアップに向けて前向きな意欲を持てるよう、後押しをするセミナーを3日間で開催します。ワークで仲間を作って、新たな一歩を踏み出しましょう！

日時：

1日目：令和5年9月30日（土）13:30～15:10

2日目：令和5年10月14日（土）13：30～16：30

3日目：令和5年10月15日（日）13：30～16：30

開催方法・場所：

1日目：Zoom ウェビナーによるライブ配信 ※東京ウィメンズプラザでも視聴可能

2・3日目：東京ウィメンズプラザ

対象：リーダー・管理職になることに迷いや不安を感じる女性

参加費：無料

定員：集合形式 60名(各日) ※両日参加の方優先、申込多数の場合は抽選

申込方法：Web

申込締切：

1日目：

・オンライン視聴 令和5年9月25日（月）

・東京ウィメンズプラザで視聴 令和5年9月22日（金）

2・3日目：令和5年10月5日（木）

<https://www.twp.metro.tokyo.lg.jp/seminar/tabid/464/Default.aspx>

【神奈川県】小田原市

女性のためのキャリアセミナー ～私のキャリアを自律的にカタチにする～

女性のキャリアは結婚・出産・育児などのライフイベントの影響を受けやすく、女性特有の体調の変化やロールモデルがないなどの課題があると言われていています。これまでのキャリアを振り返り、自律的なキャリア形成に向けてのマインドやスキルを学び、「私のありたい姿」を描きましょう。

日時：

第1回 令和5年9月20日（水）13：00～14：40

第2回 令和5年10月20日（金）13：00～14：40

開催方法：オンライン開催（Zoom）

対象：管理職やリーダーでない方、比較的職歴が浅い方（原則、2回とも参加できる方）

定員：30名 ※先着順

参加費：無料

申込方法：Web 又は電話

<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/municipality/peace/human/danjyo/event/p36494.html>

【静岡県】静岡市

静岡市主催『パパママや共働きカップルのための家事分担ワークショップ』

久保ひとみさんの「子育てと家事育児シェア」の講演&ワークショップを開催します！

ワークショップでは、夫婦が本音で話せる魔法のシート「〇〇家作戦会議」を使いながら、自分達ならではのシェア方法について対話を通して確認します。我が家のグッドバランスを楽しみながら見つけましょう！

日時：

第1回 令和5年10月7日(土) 14:00~15:30

第2回 令和5年12月2日(土) 14:00~15:30

場所：アイセル21 4階 研修室

対象：静岡市内に在住、通勤していて、育児中又は出産・育児に向けて準備中の共働き御夫婦やカップル

※お二人のうちお一方のみの参加可

定員：各回30名 ※先着順

参加費：無料

申込方法：Web、FAX

申込締切：

第1回 令和5年10月4日(水)

第2回 令和5年11月29日(水)

※いずれも17:00必着

<https://www.azarea-navi.jp/event/r51202/>

【大阪府】

ロールモデルに学ぶ！働く女性のキャリアアップ研修(9/28)

社内にロールモデルや同じ立場の同僚がいない働く女性に向けて、他の企業で活躍する先輩から話を聞く機会や、他の企業で働く女性との交流の場として、本研修を開催します！

参加者のみなさまには、仕事へのモチベーションアップや、ご自身のキャリアを考えるきっかけにさせていただきますと幸いです。また、企業の人事担当者・代表者のみなさまは、自社内におけるロールモデル養成等のため、社員の方へ本研修をご案内ください。みなさまのご参加をお待ちしております！

日時：令和5年9月28日(木) 14:00~16:00

会場：ドーンセンター 5階 視聴覚スタジオ

対象：大阪府内在住・在勤の就業中の女性

講師：田村 尚美 氏(株式会社セブン・イレブン・ジャパン)

中野 聡子 氏(田辺三菱製薬株式会社)

淵上 千夏 氏(株式会社関電システムズ)

定員：40人

参加費：無料

申込方法：下記URLからお申込みください。(9月27日(水)15時まで)

<https://lgpos.task-asp.net/cu/270008/ea/residents/procedures/apply/b675657a-8fe9-44a4-b493-df17c8c424a0/start>

詳細：<https://www.pref.osaka.lg.jp/danjo/topic/index.html>

問合せ：大阪府 府民文化部 男女参画・府民協働課 男女共同参画グループ

TEL：06-6210-9321(直通)

E-Mail：danjo-fumin@sbox.pref.osaka.lg.jp

【山口県】

「新しい働き方」導入ワークショップ～わたし達らしい働き方をめざして～を開催します
県内企業にお勤めの方を対象にワークショップを開催いたします。

日時：

(周南) 令和5年10月19日(木) 13:30～16:30

(下関) 令和5年10月20日(金) 13:30～16:30

(山口) 令和5年10月26日(木) 13:30～16:30

場所：

(周南) ほしらんどくだまつ サルビアホール B

(下関) 海峡メッセ下関 801 大会議室

(山口) KDDI 維新ホール 205 会議室

対象：県内企業にお勤めの方

定員：各会場 20名 ※1企業2名まで ※会場及びグループの定員になり次第、締切

参加費：無料

申込方法：Web

<https://y-hatarakikata.com/archives/news/workshop202310/>

【高知県】

女性の活躍応援講座「タイムマネジメント」で、私の明日をブラッシュアップ (YouTube 限定配信)
ポジティブに働くことをもっと楽しめる自分に♪私らしいキャリアを歩んでいきたいと願う、すべての働く女性を応援します！仕事にプライベートに忙しい毎日、限られた時間を有効に使うスキル「タイムマネジメント」を自分のペースで学びませんか。

日時：令和5年10月22日(日) 9:00～11月4日(土) 17:00

開催方法：オンデマンド配信 (YouTube 限定配信)

対象：女性

定員：なし

参加費：無料

申込方法：Web

申込締切：令和5年11月1日(水) 17:00まで

<https://www.sole-kochi.or.jp/info/dtl.php?ID=2032&routekbn=S>

【編集後記】

国土交通省「令和3年度 テレワーク人口実態調査」では、雇用型テレワーカーに対して、「テレワークによる業務効率向上・低下要因」について質問しています。その結果によると、「業務効率向上」の要因として、「問い合わせ、雑用、会議等が減り、業務に集中することができたから (37.2%)」が最も多く、一方で「業務効率低下」の要因としては「特になし (30.7%)」が最も多く、次いで「口頭で確認すれば簡単に済むことでも、メール等でやり取りしなければならないから (27.1%)」となった。

テレワークを効果的に機能させるためには、各企業が業務効率低下要因の解消に努めていく必要があります。そのために、まず自社の課題を把握し、ビジネスチャットやコミュニケーションツール等、DXを積極的に推進することも、テレワークにおける業務効率化につながると考えられます。

本メールは送信専用メールアドレスから配信されております。
このまま御返信いただいてもお答えできませんので御了承ください。

配信中止はこちらから

<https://nmg.cao.go.jp/cao007/unsubscribe.php>

配信先変更は上記により配信中止の後、こちらから新しいアドレスで登録

<https://nmg.cao.go.jp/cao007/subscribe.php>

バックナンバーはこちらから

<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/backnumber/index.html>

このメールマガジンへの御意見・御要望はこちらから

<https://form.cao.go.jp/gender/opinion-0086.html>

内閣府「仕事と生活の調和」推進サイトはこちらから

<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html>